

# 事業評価シート

番号 2340890 001

## 【1.基本情報】

事業名	(公財)岐阜天文台天文教育振興補助金				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	(公財)岐阜天文台
実施期間	平成9年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市天文台天文教育振興補助金交付要綱	

## 【2.事業概要】

事業の目的	直接宇宙現象に接する機会を設け、宇宙科学を通じて正しい宇宙観を涵養し、人生観を確立するとともに科学する心を育て、情操を高め健全なる青少年・社会人の育成に努める。	
事業の内容	天文教室・無料一般公開・学校への公開等教育普及	
事業の対象	何を	天文台育成補助
	誰に (対象者・対象者数)	(公財)岐阜天文台
	どのくらい (具体的 数値で)	天文教室等に係る経費の一部
令和元年度 (実施内容)	(公財)岐阜天文台に団体育成補助金を支出	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	32	1	32	1	34	1
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	32	1	32	1	34	1

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		230	230	230
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	230	230	230
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		230	230	230

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	262	262	264

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	262	262	264

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市天文台利用者	岐阜市天文台利用者	岐阜市天文台利用者
受益者数	2,280	2,205	2,255
受益者負担額(千円)	57	68	46
受益者負担率(%)	21.8%	26.0%	17.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	115	119	117

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	一般公開	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	24	24	24
実績値	24	24	22

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	天文台利用者	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,000	2,000	2,000
実績値	2,280	2,205	2,255

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	当館と天体観望会等の連携事業を展開しており、利用者は岐阜市民が多く、市内の施設であり市が助成するのが妥当である。 岐阜天文台は利益を追求するものではない。当館の15cm屈折望遠鏡より大きい25cmがあり、この維持のため補助は有意義であり市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	公益財団法人で実施中 岐阜市だけでなく、羽島市からの助成金も受けている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	当館との連携事業を行い、また、多くの市民に利用されており、公共性の高い施設への助成として、現状の継続が妥当である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	公立博物館の入館料無料原則を踏まえ、民間であるが広く天文普及を目指すことから受益者負担は適正である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	当館との連携事業を行い、また、多くの市民に利用されており、公共性の高い施設への助成として、現状維持が妥当である。

# 事業評価シート

番号 2340890 - 002

## 【1.基本情報】

事業名	科学館施設管理				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和 55 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	市民の科学に対する興味関心を高め、科学する心や創造力を育み、合わせて科学知識の普及向上を図る。	
事業の内容	科学技術の進歩や自然のすばらしさを感じ取ることのできる展示物更新やプラネタリウム新番組導入等による科学館運営をする。そして、来館者が満足できるサービスの提供をする。	
事業の対象	何を	科学及び自然のすばらしさの体験
	誰に (対象者・対象者数)	入館者(子どもから大人まで)
	どのくらい (具体的 数値で)	月曜日、祝日の翌日および年末年始を除く毎日
令和元年度 (実施内容)	常設展示、各種イベント、プラネタリウム、天体観望会、情報サービス	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	6,530	206	6,847	216	6,188	182
嘱託職員	2,462	239	2,297	223	3,317	322
アルバイト	0		0		0	
計(A)	8,992	445	9,144	439	9,505	504

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	運営管理委託	20,433	21,746	22,852
	施設保守委託	9,789	9,806	10,140
	その他委託	0	111	11
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		47,112	47,729	48,345

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	56,104	56,873	57,850

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	13,071	12,692	11,730
その他	140		
計(F)	13,211	12,692	11,730

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	42,893	44,181	46,120

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)
受益者数	94,363	88,194	79,660
受益者負担額(千円)	13,067	12,063	11,157
受益者負担率(%)	23.3%	21.2%	19.3%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	455	501	579

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開館日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	311	313	313
実績値	311	313	288

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	入館者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	85,000	90,000	80,000
実績値	94,363	88,194	79,660

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市内小中学校との結びつきが強く、社会教育施設としての博物館の役割を考えると、現状の市直営が妥当である。  市内小中学校との結びつきが強いことから、市民である児童生徒のため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市教育委員会と連携して実施するのが、効果的である。  県内では、科学館として当館ほどの施設は少なく広域は難しく効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	入館者数は維持しており、事業の目的は達している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	受益者(観覧者)に岐阜市科学館条例に定める観覧料の負担を求める一方、岐阜市科学館条例施行規則に定める市内小中学生、70歳以上の市内在住者、身体身障者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳交付者とその介護者1名、岐阜県家庭の日に観覧する中学生以下と同伴家族を無料とし、教育的配慮と公平な受益者負担に努めている。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市内小中学校と連携の維持・向上を目指し、社会教育施設としての博物館の役割を考えると現状維持が妥当である。

# 事業評価シート

番号 2340890 - 003

## 【1.基本情報】

事業名	科学館常設展示				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和 55 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	市民の科学に対する興味関心を高め、科学する心や創造力を育み、合わせて科学知識の普及向上を図る。	
事業の内容	科学技術の進歩や自然のすばらしさを感じ取ることのできる展示物更新やプラネタリウム新番組導入等による科学館運営をする。そして、来館者が満足できるサービスの提供をする。	
事業の対象	何を	科学及び自然のすばらしさの体験
	誰に (対象者・対象者数)	入館者(子どもから大人まで)
	どのくらい (具体的 数値で)	月曜日、祝日の翌日および年末年始を除く毎日
令和元年度 (実施内容)	常設展示、各種イベント、プラネタリウム、天体観望会、情報サービス	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	13,029	411	10,271	324	9,248	272
嘱託職員	3,698	359	3,760	365	3,536	340
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>16,726</b>	<b>770</b>	<b>14,030</b>	<b>689</b>	<b>12,784</b>	<b>612</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		5,628	5,798	6,079
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	展示物保守委託	4,074	4,420	4,380
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>5,628</b>	<b>5,798</b>	<b>6,079</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,354	19,828	18,863

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,354	19,828	18,863

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)
受益者数	94,363	88,194	79,660
受益者負担額(千円)	13,067	12,063	11,157
受益者負担率(%)	58.5%	60.8%	59.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	237	225	237

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開館日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	311	313	313
実績値	311	313	288

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	入館者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	85,000	90,000	80,000
実績値	94,363	88,194	79,660

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市内小中学校との結びつきが強く、社会教育施設としての博物館の役割を考えると、現状の市直営が妥当である。  市内小中学校との結びつきが強いことから、市民である児童生徒のため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市教育委員会と連携して実施するのが、効果的である。  県内では、科学館として当館ほどの施設は少なく広域は難しく効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	入館者数は維持している。科学の楽しさ・面白さを体験できる。これらにより事業の目的は達している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者(観覧者)に岐阜市科学館条例に定める観覧料の負担を求める一方、岐阜市科学館条例施行規則に定める市内小中学生、70歳以上の市内在住者、身体身障者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳交付者とその介護者1名、岐阜県家庭の日に観覧する中学生以下と同伴家族を無料とし、教育的配慮と公平な受益者負担に努めている。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市内小中学校と連携の維持・向上を目指し、社会教育施設としての博物館の役割を考えると現状維持が妥当である。

# 事業評価シート

番号 2340890 - 004

## 【1.基本情報】

事業名	科学館プラネタリウム				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和 63 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	市民の科学に対する興味関心を高め、科学する心や創造力を育み、合わせて科学知識の普及向上を図る。	
事業の内容	科学技術の進歩や自然のすばらしさを感じ取ることのできる展示物更新やプラネタリウム新番組導入等による科学館運営をする。そして、来館者が満足できるサービスの提供をする。	
事業の対象	何を	科学及び自然のすばらしさの体験
	誰に (対象者・対象者数)	入館者(子どもから大人まで)
	どのくらい (具体的 数値で)	月曜日、祝日の翌日および年末年始を除く毎日
令和元年度 (実施内容)	常設展示、各種イベント、プラネタリウム、天体観望会、情報サービス	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	6,530	206	6,847	216	6,188	182
嘱託職員	1,957	190	1,452	141	1,331	128
アルバイト	60	13	97	21	89	19
計(A)	8,547	409	8,396	378	7,609	329

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		14,008	13,022	14,083
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	プラネ番組等使用料	11,556	10,943	11,755
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		14,008	13,022	14,083

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,555	21,418	21,692

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,555	21,418	21,692

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)	科学館入館者(特別展を除く)
受益者数	94,363	88,194	79,660
受益者負担額(千円)	13,067	12,063	11,157
受益者負担率(%)	57.9%	56.3%	51.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	239	243	272

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開館日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	311	313	313
実績値	311	313	288

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	入館者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	85,000	90,000	80,000
実績値	94,363	88,194	79,660

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市内小中学校との結びつきが強く、社会教育施設としての博物館の役割を考えると、現状の市直営が妥当である。  市内小中学校との結びつきが強いことから、市民である児童生徒のため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市教育委員会と連携して実施するのが、効果的である。  県内では、科学館として当館ほどの施設は少なく広域は難しく効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	入館者数は維持している。小中学校児童生徒向けのプラネタリウム番組もあり、小中学校との結びつきも強い。これらにより事業の目的は達している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	受益者(観覧者)に岐阜市科学館条例に定める観覧料の負担を求める一方、岐阜市科学館条例施行規則に定める市内小中学生、70歳以上の市内在住者、身体身障者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳交付者とその介護者1名、岐阜県家庭の日(に)観覧する中学生以下と同伴家族を無料とし、教育的配慮と公平な受益者負担に努めている。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市内小中学校と連携の維持・向上を目指し、社会教育施設としての博物館の役割を考えると現状維持が妥当である。



# 事業評価シート

番号 2340890 - 005

## 【1.基本情報】

事業名	科学館特別展				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	実行委員会	
実施期間	平成 10 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	科学の魅力とすばらしさを体験・発見をってもらう場を設け、科学への興味関心を高めてもらう。	
事業の内容	さまざまなテーマについて、通常の常設展示では見られない科学に関する展示を行う。	
事業の対象	何を	通常では見られない科学に関する展示等
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民
	どのくらい (具体的 数値で)	おおむね夏休み期間中
令和元年度 (実施内容)	「キラキラの昆虫展2019」を実施した。	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,790	88	3,043	96	3,264	96
嘱託職員	680	66	742	72	749	72
アルバイト	363	79	368	80	376	80
計(A)	3,833	233	4,153	248	4,389	248

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		11,994	11,169	11,364
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	開催負担金	11,994	11,169	11,364
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		11,994	11,169	11,364

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	15,827	15,322	15,753

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	12,931	9,801	8,190
計(F)	12,931	9,801	8,190

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,896	5,521	7,563

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	特別展入場者	特別展入場者	特別展入場者
受益者数	44,808	35,328	29,290
受益者負担額(千円)	22,874	16,691	14,307
受益者負担率(%)	144.5%	108.9%	90.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	65	156	258

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	特別展開館日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	35	37	38
実績値	35	37	38

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	特別展入場者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	42,000	40,000	30,000
実績値	44,808	35,328	29,290

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	常設展ではできない規模の展示を行い、博物館として役割を高めているため現状が妥当である。  博物館としての役割を高めているので市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市と岐阜新聞社との実行委員会を実施しており、広くPRもでき効率的である。  学校教育との結びつきも強く、公共性が高いため現状が妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	減少傾向にあるが、毎年約4万人の入場者があり、収支の割合も高いため現状が妥当である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	入場者数が多いほど、受益者1人当たりのコストが0円に近くなり、公平性は高い。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	減少傾向にあるが、毎年約4万人の入場者があり、収支の割合も高いため現状が妥当である。

# 事業評価シート

番号 2340890 006

## 【1.基本情報】

事業名	科学くふう展・科学の夢絵画展				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和 55 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	児童生徒の科学に対する芽を育て、豊かな創造性の高揚を図る。				
事業の内容	市内小中学校から、児童生徒の夏休みの工作や絵画の一作品を募集し、展示会で一般市民に披露する。				
事業の対象	何を	児童生徒の夏休みの工作や絵画の一作品を展示			
	誰に (対象者・対象者数)	児童生徒、一般市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	9月中旬(作品展開催)			
令和元年度 (実施内容)	9月28日から29日まで、工作509点、絵画139点を展示した。				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	824	26	634	20	680	20
嘱託職員	155	15	155	15	156	15
アルバイト	87	19	92	20	94	20
計(A)	1,066	60	881	55	930	55

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		258	349	364
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報告書印刷	119	108	122
	審査員旅費	25	27	26
	参加賞	65	74	85
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		258	349	364

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,324	1,230	1,294

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,324	1,230	1,294

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	くふう展絵画展入場者	くふう展絵画展入場者	くふう展絵画展入場者
受益者数	2,784	2,555	2,752
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	476	481	470

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	作品応募点数	単位	点
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	800	700	700
実績値	652	643	648

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	くふう展絵画展入場者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,800	2,800	2,800
実績値	2,784	2,555	2,752

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市内小中学校児童生徒の優秀な作品を展示するのでニーズはある。 市内小中学校児童生徒の作品であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市教育委員会との連携が必要な事業であり、現状が妥当である。 市内小中学校児童生徒の作品であるため、現状維持が妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	児童生徒からの作品の応募で、展示会にもたくさんの市民が訪れており、児童生徒の科学やものづくりへの興味関心・創造力を高める事業として、現状が妥当である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市内小中学校児童生徒の作品である。そのため、料金を取るべきでない。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	児童生徒からの作品の応募で、展示会にもたくさんの市民が訪れており、児童生徒の科学やものづくりへの興味関心・創造力を高める事業として、現状維持が妥当である。

# 事業評価シート

番号 2340890 007

## 【1.基本情報】

事業名	科学館教育活動				
担当部名	教育委員会事務局	担当課名	科学館		
未来地図政策	子育て世代が安心できる支援の充実		政策コード	1 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和 55 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	科学への興味、関心を高める。				
事業の内容	植物、石等の観察や電気的な工作・パソコンの演習・習得、木の工作等ものづくりを通して科学への関心を高める。				
事業の対象	何を	科学に関する工作・実験等			
	誰に (対象者・対象者数)	小・中学生及びその保護者、成人			
	どのくらい (具体的 数値で)	開館日(子ども向け講座は主に土日)			
令和元年度 (実施内容)	親子科学教室、パソコン教室、発明クラブ、岐阜科学塾、サイエンス工房などの科学教室やサイエンスショーや、ぎふサイエンスフェスティバル、スターウォッチングなどを実施				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	36,233	1,143	38,230	1,206	39,678	1,167
嘱託職員	9,816	953	10,352	1,005	10,119	973
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>46,049</b>	<b>2,096</b>	<b>48,582</b>	<b>2,211</b>	<b>49,797</b>	<b>2,140</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		8,936	9,141	8,459
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	教材費	3,408	3,358	3,342
	開催負担金	2,084	2,079	2,069
	教材備品費	1,243	1,010	744
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>8,936</b>	<b>9,141</b>	<b>8,459</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	54,985	57,723	58,256

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	54,985	57,723	58,256

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	教室等参加者	教室等参加者	教室等参加者
受益者数	40,781	45,679	45,647
受益者負担額(千円)	1,387	1,548	1,270
受益者負担率(%)	2.5%	2.7%	2.2%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,348	1,264	1,276

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	126	125	125
実績値	126	125	123

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	4,488	4,488	4,904
実績値	4,069	4,231	4,414

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	児童生徒向けの講座が多いものの、大人向けの講座もあり、市民ニーズに合っている。  これらの講座は社会教育の1つであり、多くの受講者が市民であるため、市が担う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	ほとんどの講座が定員を上回る応募があり、効率性は高い。  一部の講座においては、NPO法人等により対応可能であるが、講師不足であり、対応できない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	ほとんどの講座がアンケートによる満足度は高い。また、将来に当館への来館につながる効果が得られる見込みの取り組みもある。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	各講座ごとに受講料を設定し、受益者に費用の一部負担を求め、公平性を高めている。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	ほとんどの講座で定員を超える応募があり、アンケートによる満足度も高い。現状維持が妥当である。